

熊本ボランティア活動報告会

日時：平成28年7月2日（土）14:07～15:05

場所：市民交流プラザ IKODE瓦町（瓦町FLAG8階）

主催：NPO法人東北ボランティア有志の会香川

14:07～14:09 開会挨拶 代表 藤井節子

- ・東北にいつも行っているが、熊本も大変な状況なので、東北同様、熊本にも思いを寄せていただきたい。

14:09～14:20 香川MOV（香川モーターサイクル防災機動ボランティア）代表 子亀

○はじめに

- ・4月24日～26日、ボランティア活動に入った。
- ・本震が4月17日。東北は遠く、なかなか活動に参加できなかったが、熊本は四国から近く、被災地の状況を確認したく、現場の様子が日々変化していくことを聞いていたので、なるべく早い段階で、混乱した状況を、いずれ我が身に降りかかってくるからです、出来るだけ早いタイミングで行こうと思っていた。
- ・県外からのボランティアを受け入れる事への情報がなかなか入ってこなかった。
- ・しかし、インターネットが生きていたので、熊本市のボランティアセンターは県外からの受け入れをしていたので、そこに行こうと。
- ・私たちはバイクを使うボランティアなので、「**バイクを使う活動があるか**」問い合わせたら、窓口の女性が「有る」と。

○現地へ

- ・佐田岬から、フェリー、国道57号を使って熊本に入るのが近いと思った。
- ・ニュースで地名は聞くが位置がよくわからず、国道57号が一番被害の大きなところで、立野地区から先に行けず、迂回の方法もわからず、熊本地区に近づけないと早めに判断でき、南阿蘇村のボランティアセンターに行こうと。
- ・警察、自衛隊の方が不眠不休で復旧工事をしようと、交通指導をしようとしている。
- ・交通規制している自衛隊の人に道を聞きながら、南阿蘇村へ。

○ボランティアセンターにて

- ・80人の募集のところに400人ぐらいのボランティアがきていて、ボランティアセンターが大変な状況。
- ・「ボランティアセンターの運営側の支援」を申し出たが、「期間が短い（2日間）ので難しいだろう」と、一般ボランティアの活動を。

○避難所にて

- ・600箇所の避難所に避難者6万人。10分おきに自衛隊の車が支援物資を運んでいた。**とんでもない車の量。**
- ・おじいちゃんおばあちゃんが、窓ガラスが壊れた軽トラで支援物資を取りにくる。
- ・**ボランティアセンターの人はピリピリし、避難所の中はシーンとしていて、圧倒されたのを覚えている。**
- ・「交通整理」をして欲しいと。ボランティアセンターからは「支援して欲しい場所と人数」だけが伝えられていた。避難所にはボランティアだけで数十～100人の人がいるので、支援に来

- ・ **ゴム付きの丈夫な軍手**（ガラスなどで怪我をしないように、丈夫な手袋で）
- ・ **ウエストポーチ** 水、貴重品、
- ・ **ヘルメット** バイク用のヘルメットを使った。バイザーがゴーグルの代わりになるかと思ったが・・・

○トイレ

- ・ 活動場所からセンターに戻ってトイレを使い、また活動場所に戻る状況。
- ・ 雨水を蓄えてトイレで使う工夫。

○支援活動

- ・ 簡単なラジオ体操をして、現場に向かう。
- ・ 屋内班と屋外班の二班に分かれ。私は屋外班に。崩れたブロック塀を片づけ、ダンプトラックに乗せていく。
- ・ 一つの場所が片づくごとに、「人間の力ってすごいよね」とロ々に。
- ・ みんな初対面のメンバーでしたが、スムーズに作業方法の改善など出来た。
- ・ 屋内班は、停電した冷蔵庫の中の腐敗した食物の整理や、家の中の片付け・・・
- ・ 家主の方が、お菓子や飲み物を用意して「食べて」と。最初は断っていたが、最後頃では、一緒に交流、**お茶を飲みながらお話をすることも心の交流**になるのではと。

○身近な問題と感じたこと

- ・ **震災がれき**：生活ゴミ、電気製品、木材、ブロック、プラスチック、糞尿、アスベストなど環境汚染物質・・・ 分別して、所定のところに持って行く必要がある。
- ・ 近くの集積場がいっぱいになったのか、車で片道25分かかる場所へ運搬。**往復50分間は積み込みの作業が待たされることに。**

○今回の作業のとりまとめ役

- ・ 東北震災を経験された方がとりまとめ役を。
- ・ 東北でも「語り部」をされている方で、作業途中にも色々な話しをしてくれた。
- ・ 私は建設業で勤務しており、「重機があれば人手でこんなことをしなくてもいいのに」との思いがあったが、「**被災者の方とお話ししながら、地震の様子を聞きながら進めることが大切**」とのアドバイス。
- ・ 「**被災者の方にアドバイスや意見を言うのではなく、聞き役に徹して**」と。
- ・ 「**率先避難者となってください**」「**自分が最初に行動を起こしてください**」と繰り返し言われた。

○最後に

- ・ 現地に行き、崩れたブロック塀がどんどん片付いていき、地元の方から「また来て下さいね」と言われ、お役に立てたかなあと充実感があります。

14:43~14:49 <炊き出しの様子 報告者：やまもと>

○うどんの提供

- ・ 避難所の炊き出しを実施。暖かいもの、汁物が欲しいとの要望に応え、中野うどん学校から1千食のうどんの提供。
- ・ 普段なら1時間でいけるところを、通行止めばかりで、2時間半かかって役場へ。

- ・これまでの東北では150～200食の提供だったので、たくさんうどんを出せるか心配だった。
- ・たくさん食事を提供するには、生のモノは提供できない。刻みネギも一度熱を通して提供。

○避難所の状況

- ・段ボールを壁に、碁盤の目に部屋を区切り、高さ180cmほどの壁。100区画ぐらい
- ・大勢での共同生活、少しでもプライバシーを保とうとの壁。視線が防げるということは、空気の流れも止まり、熱中症や暑さ対策は深刻。でも、音は遮れない。
- ・香川MOV 4月当初は避難所が煩雑との報告だったが、6月の避難所は整理がされていた。
- ・阪神淡路の時はトイレの臭いがしたりしていたが、トイレの清掃が行き届いていて、臭いは無かった。
- ・避難所では、一斉清掃の時間があり、みんなで清掃をしていた。
- ・みなさんがルールを作り、協力しながら、節度を守りながら生活されていると感じた。

○ウイングまつばせ（避難所）

- ・どうやってうどんを作るのか興味を持って、準備から見に来てくれていた。
- ・「おいしい!」と、2杯以上のおかわり、5杯食べた方も。讃岐うどんはどこに行っても喜ばれます。

14:49～14:53 <現地の状況 報告者：藤井節子>

- ・南阿蘇 2階建ての建物の1階部分がつぶれ、平屋の建物のように。
- ・雨の日が多かったので、合羽を着てドロドロになりながらの作業でしたが、みなさん「参加して良かった」と。
- ・自分の目で被災地を見たことが良かった。20歳～65歳 全員が仲良くなって、協力しあつての活動が出来た。
- ・ボランティアは特別のことではない。出来る人が、出来ることを、出来る時にすればいい。
- ・被災者の方とお話するだけでも喜んでいただける。

- ・7月15日から東北に行くので、義援金5万1千円 釜石市に持参、市長に手渡し、話しや交流をしたい。

14:53～15:05 参加者からの感想など

○男性：ヘルメットを被って被災地に入つてのボランティアは初めてで、参加して良かった。Facebookで今回の活動を知って、参加。現地が大変なことになっている、ボランティアコーディネータの大切さがわかった。ボランティアをやっていこうという気持ちが大切。

○女性：参加者には20歳ぐらいの学生さんが何人もいて、今回はすごいと思っていた。雨の中、同じ作業をしてご飯を食べ、話をして、若いのにしっかりとした考えの方がいて、うれしかった。20～67歳の方まで幅広いメンバーで、とても良い活動が出来た。活動で思ったことを、帰ってきてまわりの人に話したのだが、興味の無い人には、何の話しをしても興味が無い。災害の時にどうしたらいいか、まわりの人に少しでも話しながら、意識付けをしてもらえればと思った。

○藤井節子

- ・通行止めは今もあり、ナビで行ってもぜんぜん行けず、地元の人に聞かないと行けない。
- ・東北に2週間後に行くので、ご検討を。行きたい方をご紹介ください。

○男性2：トヨタなどの自動車会社が、ホームページで「とおれる道マップ」の情報を提供していた。車載ナビの走行履歴のデータを地図上に重ねることで、直近の3日以内や、12時間以内など、走行出来た道路が地図上で確認できる仕組み。被害調査のためのクルーも、そのようなマップを参考にすることをしていた。

○藤井節子：欲張って行動したので、色々な場所に。グーグルマップでナビをしたが、通行止めの箇所が多く使いものにならず。ヤフーマップは通行止めが入っているとのことだったが、全てではなかった。

—以上—



東北ボランティア有志の会香川
第15回ボランティアバスツアー「6年目の被災地を確かめに行きませんか？」

2011年11月から始まった東北でのボランティア活動。今回第15回目の「東北ボランティアバスツアー」は岩手県を訪問します。

<日時> 2016年7月15日(金) 19:00 高松駅発～7月18日(月・祝) 11:00頃 高松駅 帰着
 <目的地> 岩手県釜石市、大船渡市、他
 <活動> うどん教室と炊き出し、住民の方と交流、被災地視察
 <参加費> 40,000～60,000円(参加人数で変動あり)
 <食事> 3回(2日目昼・夜、3日目昼。往路復路はSAで各自)
 <定員> 21名程度(最小催行人数15人～)
 <概略> 15日(往路) 19時 高松駅バスターミナル出発、途中休憩をとりながらバス車中泊
 16日(活動) 釜石市へ義援金お届けと視察。仮設住民の方と懇親会。仮設住宅宿泊
 17日(活動) 仮設住宅で「うどん教室イベント」、被災地視察。バス車中泊
 18日(復路) 昼頃に高松へ帰着予定



2016年3月 福島県南相馬市
「大鹿仮設住宅」にて

旅行に関するお問合せ

<旅行企画・実施> 東交トラベル株式会社

香川県知事登録旅行業第2-239号
 総合旅行業務取扱管理者 川畑亮
 087-821-1119
 香川県高松市朝日新町32-10

ボランティア活動に関するお問合せ

<主催> 東北ボランティア有志の会香川

TEL 090-5718-2220
 MAIL tokuhiyushinokaikagawa@gmail.com
 WEB <https://www.facebook.com/touhokuborakagawa>